

ナガイモ原原種むかごの増収技術

野菜研究所

ナガイモの生産量を高めるためには、ウイルスに感染していない無病の種苗を使うことが重要です。

本県のナガイモの約4割を占める優良系統「園試系6」は、当研究所で無病のむかごを生産し、全農あおもりでの種苗増殖を経て、生産農家に供給されています。最近、この種苗の増産が要望されており、当研究所で取り組んできたむかご生産量の増収を図る試験について、紹介します。

むかご増収技術

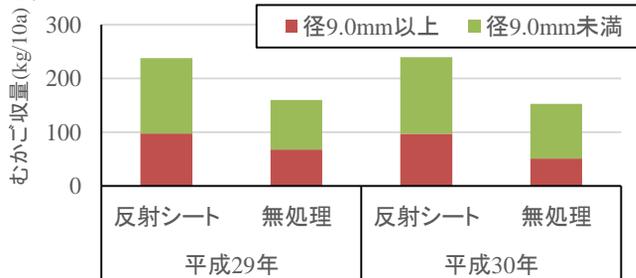
畝間への反射シート被覆、催芽切いもの利用が、それぞれむかご生産量の増収効果を高めることを確認しました。

反射シート被覆

ナガイモの畝間に銀色の反射シート(商品名：ネオポリシャイン)を萌芽期頃から10月末頃まで展張することで、むかごの総収量が1.5倍程度増加し、そのうちむかご径9.0mm以上の大型規格収量が1.4～1.9倍程度増収しました。



ネオポリシャイン設置
網室の生育終期の様子



催芽切いもの利用

ナガイモを切断しキュアリング(※)した後、催芽処理した切いもを5月中旬に植え付けることで、むかごの総収量が1.5～2.0倍程度増加し、そのうちむかご径9.0mm以上の大型規格の収量が1.3～2.5倍程度増収しました。

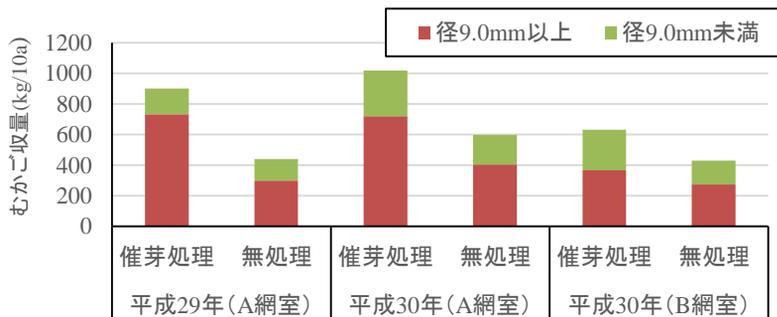
※ キュアリング〔Curing〕：
高温多湿条件下に一定期間おくことで、切断面にコルク層を形成させて腐敗を防ぐ方法



生育初期の様子
(左:無処理区、右:催芽区)



催芽処理後の芽



今後の予定

増収効果の高かった反射シート被覆と催芽切いも利用の2つの処理を組み合わせ、更なる生産量の拡大を現在検討中です。

お問い合わせ

野菜研究所 品種開発部 (Tel 0176-53-7171)